

経済対策第一弾として一般会計は約2億6800万円の補正 道路改良、土地改良事業の他、学校のトイレ改修なども

臨時議会が29日開催されました。主な議案は一般会計補正予算と新幹線新駅地区土地区画整理事業特別会計補正予算です。このうち一般会計補正予算では、道路改良費や土地改良費など2億6811万円が計上されました。これは前

区分	地区名	事業費	国補助金(55%)	市負担(5%)	地元負担	施工内容	
合併前上越市	岩木	1,471	805	73	593	ため池 取水施設修繕 1か所	
安塚区	上船倉	526	288	26	212	ため池 取水施設修繕 2か所	
	小黒	487	266	24	197	ため池 土留工 L=15m	
	小黒	98	54	5	39	ため池 堤体シート修繕 1か所	
	坊金	661	362	33	266	ため池 堤体補強 1か所	
	須川	526	288	26	212	ため池 堤体補強 1か所	
浦川原区	山本	4,967	2,720	247	2,000	用水路 布設 L=455m	
大島区	田麦	196	107	10	79	ため池 取水施設の修繕 1か所	
牧区	檜谷	12,780	6,998	636	5,146	ため池 堤体シートの張替 A=2,320㎡	
	平方	1,387	759	69	559	ため池 堤体シートの補修 1か所	
	坪山	94	51	5	38	ため池 堤体シートの補修 1か所	
	坪山	84	46	4	34	ため池 流入口布設替 L=2m	
柿崎区	馬正面	913	502	411	*	0	用排水路 横断樋管修繕 L=75m
吉川区	高沢入	1,217	667	61	489	ため池 堤体シートの張替 A=110㎡	
	坪野	913	500	45	368	ため池 堤体シートの補修 3か所	
板倉区	釜塚	218	119	11	88	ため池 送水管の布設替 L=5m	
清里区	上中條	14,614	8,002	727	5,885	ため池 堤体シートの張替 A=1,148㎡	
	上中條	3,980	2,180	199	1,601	ため池 揚水ポンプの修繕 1か所	
	長池	19,321	10,579	961	7,781	ため池 取水施設の修繕 2か所 (設計委託業務含む)	
	青柳	547	299	28	220	ため池 導水管の布設替 L=44m	
合計	20地区	65,000	35,592	3,601	25,807		

民主党政権が「経済危機対応・地域活性化予備費等の活用」として打ち出した経済対策を活用した上越市の経済対策の第一弾ともいえるべきものです。今回の補正予算について村山秀幸市長は、

「早期に発注が可能なもの、農林水産業の振興や市民の安全対策に資する事業などを中心に選定した」と説明しました。

予算の中で一番多かったのは道路改良等工事です。市道長塚稲増線(板倉区豊原小学校の付近)の歩道整備、市道三ツ屋浜村中線の道路側溝工事等1億1531万円が計上されました。次に多かったのは土地改良事業関連です。農地・農業用排水施設及びため池整備(上の図表は土地改良区域外のもの)を前倒しして実施するための予算、6756万円が盛り込まれました。このほか南本町小学校大規模改造トイレ改修事業で4151万円、新幹線新駅東口駅前広場築造工事(路床工事)で5750万円が入っています。常任委員会の審査では、今回の経済対策をすすめるにあたっての市の経済対策本部などでの議論をしてきた

かを私が訊いたほか、新幹線新駅東口駅前広場築造工事の今後のスケジュール、ため池整備の今後の計画などいくつかの質問が行われました。採決ではいずれの議案も、委員会、本会議において全会一致で可決されました。

総務委が新水族館検討状況を調査

市議会総務常任委員会が25日開かれ、新水族博物館の検討状況について調査しました。

新水族博物館の整備に係る有識者検討委員会がこれまで集客見通しや事業収支・損益分岐、実現可能な整備・運営手法などについて議論。その結果、集客数は、「標準パターン」で開館初年度約60万人、2年目49万人、20年間平均で約37万人と予測される、「(5年ごとに3億円の)再投資費用の確保を考慮しても十分事業が成立する」と結論付けています。

この日の委員会で私は、「新水族博物館の経営状況には今後の経済状況が大きく影響する。簡単には雇用の拡大、消費の高まりは期待できない。悪くなる可能性もある。経済情勢は集客の前提となるが、その点、どう考えて検討されたか」と質問しました。これに対して竹田企画政策部長は、「経済状況については将来見通しできないし、議論していない。集客予測は過去10年、20年の状況を加味して予測している。決して楽観視していない」と答えました。

他の委員からも、「北陸新幹線開業後、観光客が50%増える」と見込んでいるが、九州のように観光資源が多くはない中で本当に見込めるのか」「集客のベースは上越地域の子どもだ。少子化がすすむなかで予測通り集客できるのか」という声が上がっていました。



豪雪の実態調査で板倉区に出かけた時のことです。昨年のも二月の調査の時にも寄せていただいたSさん宅へお礼を兼ねて立ち寄りしました。「いなくなったかいね」と声をかけると、コタツでテレビを観ていたSさん夫婦に「さ、入って。お茶を飲んでいきな」と勧められました。

集落の様子を見てから、Sさん宅に上がらせてもらったのですが、すぐにはお茶が出てきませんでした。そのわけは後でわかりましたが、訪ねた私ともう一人の仲間に食べさせたいものがあつたのです。

最初にチョコさんが飯台の上に出してくださったのは、手作りのコンニャクでした。コンニャクには深緑色のワカメがからめてあつて、これがまたいい味を出していました。ワカメとセットになったコンニャク料理を食べるのは初めてです。カメラに収めると、NHKの「きょうの料理」でも使えそうなきれいな写真となりました。

コンニャクを食べ始めて間もなく、今度はトン汁に使うような大きなどんぶりに煮物が出てきました。まあ、これがまた美味しそうな鍋物です。サケ、生サバの頭、ダイコン、人参、それにサトイモが入って湯気を立てています。チョコさんは、「じゃがじゃが煮だすけ、どんなだよ」と遠慮勝ちに言いました。

「じゃがじゃが煮」という言葉が出た瞬間、私は「いったい、なんだろう」と思いました。「ジャガイモ煮」だったらわかるけれども、ジャガイモが入っていない「じゃがじゃが煮」っておもしろい表現だ。そう感じて、すぐにチョコさんに尋ねたのです。「じゃがじゃが煮って何ですわ……」って。ところが、チョコさんもお連れ合いのショウジさんも急に笑い出したのです。しばらく時間をおいて、やっと出てきた言葉は、「じゃがじゃが煮るすけ、じゃがじゃが煮さね」。これじゃわかりません。この「じゃがじゃが」を知りたかつたのですから。

それでいま一度訊きました。「その、『じゃがじゃが』を訊きたかつたんだわね」と言うと、またチョコさんもショウジさんも笑い出します。うーん、参りました。どうも、この「じゃがじゃが煮」というのは、この二人だけで通用する言葉らしい。

チョコさんによると、この煮物は居間にある石油ストーブの上に大きな鍋をのせ、約三時間かけて作ったといいます。調理方法、中に入れる具の順番まで教えてもらったのですが、記憶に残ったのは、先にある程度煮ておくものがあること、本だしを使っていること、ダイコンは早い段階で入れて、味をしみ込ませるくらいなもの、あとは食べることに夢中になっていたので頭に入りませんでした。

ただ、しっかりと頭に入ったことがあります。この料理は時間をかけてゆっくり作ればまだ美味しくなるということです。温め、冷まし、また温める。これを何度も繰り返すことで美味しさが増す。どうやら、チョコさんは、まだまだ美味しくなるものだが、そこまで時間をかけていない料理だということを、「じゃがじゃが煮」と表現したようなのです。でも「じゃがじゃが煮」は美味しかった。私はどんぶりで二杯もいただきました。

この日、Sさん宅から猿供養寺の方を見たら、雪で真っ白になった黒倉山が太陽に照らしだされて輝いていました。黒倉の雪が消える頃、ショウジさんとチョコさんは大好きな山菜採りに出かけます。ショウジさん、八五歳。チョコさん、八〇歳。「年の若い奥さんもらつていかつたね」と言つたら二人ともまた大笑いでした。

吉川、柿崎、牧、大島区などの豪雪地帯を視察

大雪災害警戒対策本部が26日設置されたことを受けて、27日、29日、30日と吉川区、柿崎区、大島区、安塚区、浦川原区、牧区等の豪雪地帯を見てきました。

先週後半の吹雪は平野部でも山間

部でも猛威をふるいました。27日、吉川区の上川谷と大島区の板山間はちょうどブルによる除雪直前の一番きびしい時間帯に通りましたが、吹雪で道が極端に狭くなっているところがあちこちにありました。

積雪は吉川区上川谷で3尺40センチ、大島区竹平で3尺30センチ（いずれも27日現在）です。意外と少ないと感じたのは大島区菖蒲でした。

2尺56センチ（同）です。いつもなら、この時期、同じ大島区竹平よりも多くなるのに、「今年はどうなっているのか」という声もありました。27日は日曜日とあつて、どこでも除雪機で除雪している人や屋根に上っている人が見られました。宣伝カーで「何かお困りのことがありましたら橋爪までお知らせください」の呼び掛けに手を合わせて「ありがとう」の合図を送ってくださる方もありました。

牧区は市の中山間地対策のモデル集落となっている高尾へ行ってきました。途中、通行者の安全確保のための雪庇

落とし作業が行われていました。気温が上がる時は雪崩の危険性が高まります。早め、早めの雪庇落としが大切です。

雪はこれからが本番です。私たちの調査を受けて、日本共産党の井上さとし参院議員が2日に市内の山間部に入り、災害救助法適用前の国の支援策の在り方、冬期保安要員制度の創設（国の制度として）などについて調査、研究します。

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	1月23日(水)	1月30日(水)
上越南消防署	0.030	0.033
上越北消防署	0.050	0.057
新井消防署	0.046	0.043
頸北消防署	0.040	0.050
頸南消防署	0.040	0.037
東頸消防署	0.040	0.047
高土分遣所	0.040	0.063
名立分遣所	0.040	0.046



写真上は吉川区上川谷。下は大島区竹平。いずれも27日撮影。